

ホイール・ナットへのマーキングやホイールナットマーカ―を活用した新たな点検の実施の方法等の導入

日常点検の実施方法の一部が見直されました

国土交通省では、「自動車の点検及び整備に関する手引き」（平成19年国土交通省告示第317号）を改正し、ホイールナットマーカ―等を活用した新たな点検方法や車齢4年以上の車両に車輪脱落事故が多く発生していることを踏まえ、ホイール・ボルト及びホイール・ナットの交換目安等を規定しました。



令和3年3月31日
国土交通省
プレスリリース

日常点検の実施の方法

ホイール・ナットへのマーキングやホイールナットマーカ―を活用した目視によるホイール・ナット及びホイール・ボルトの緩みの点検の明確化

定期点検（3ヶ月ごと）の実施の方法

新品から4年を経過したホイール・ボルト及びホイール・ナットを入念に点検することを交換の目安として明記

整備の実施の方法

タイヤ交換手順の明確化・タイヤ交換後の増し締めの実施手順の明確化

【タイヤの取付けの状態】 日常点検の実施の方法（抜粋）

ディスク・ホイールの取付状態について、ホイール・ボルトの折損、ホイール・ナットの緩み等がないかを点検ハンマなどを使用して点検します。なお、ISO方式のホイール・ナットの緩みの点検にあつては、

ホイール・ナット及びホイール・ボルトへのマーキングを施しマーキングのずれを目視により確認する方法 又はホイール・ナットの回転を指示するインジケータ―を装着しインジケータ―相互の指示のずれやインジケータ―連結部の変形を目視により確認する方法

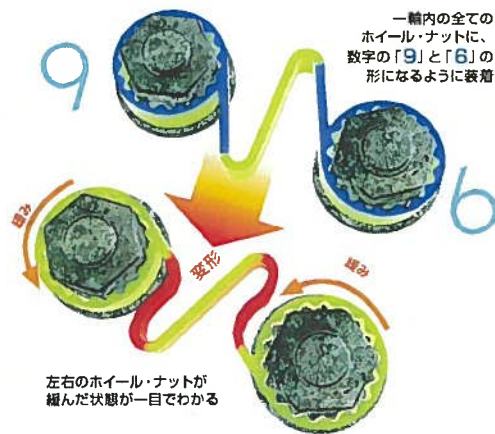
に代えることができます。ただし、ホイール・ナット及びホイール・ボルトを一体で覆うインジケータ―にあつては、目視によりディスク・ホイールの取付状態を点検する際に、インジケータ―を取り外して点検しなければならないことに注意してください。

マーキングを活用して ホイール・ナットの緩みの見える化へ

規定トルクで締め付けたホイール・ナットに「ホイールナットマーカ―」を取り付けることで、走行等によりホイール・ナットが緩んだ状態を可視化できます。確実な日常点検の実施方法を社内で徹底しましょう。



ホイール・ナットへのマーキング例



左右のホイール・ナットが緩んだ状態が一目でわかる

ホイールナットマーカ―の装着例

（ホイールナット回転指示インジケータ―（ISO方式）装着の場合）

※「インジケータ―」は、大型車メーカー各社の販売店にお問い合わせ願います。

【参考：自工会作成資料】https://www.jama.or.jp/user/fall_off_wheel/car/index/indicator.pdf#view=Fit



大型トラックの 車輪脱落事故が 激 増 中!

— 死亡・重傷事故も発生 —



車輪脱落による
人への衝撃!



出典：大型車の車輪脱落事故防止に向けた安全啓発ビデオ（抜粋）

実験の映像は
こちらからご覧いただけます。

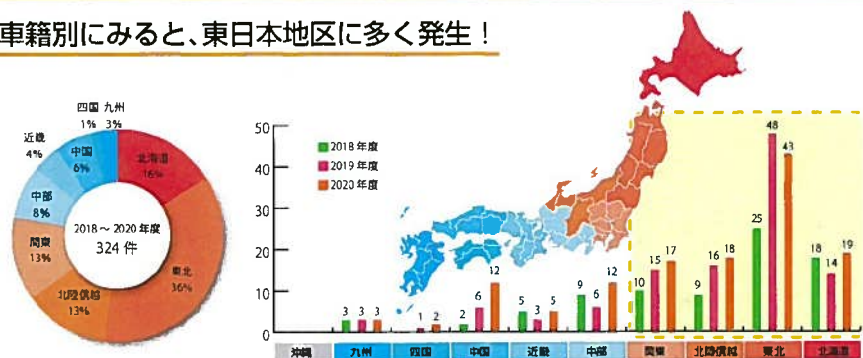
https://jta.or.jp/member/anzen/tenken_snow_dvd.html



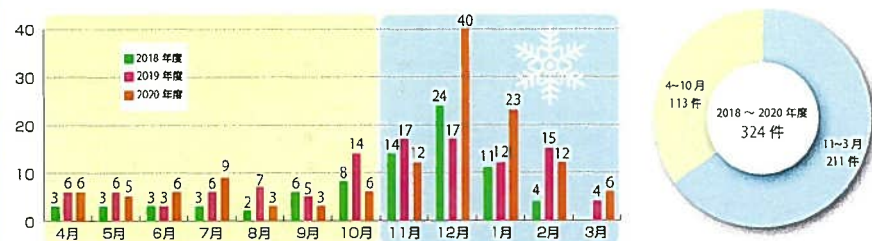
公益社団法人
全日本トラック協会

ホイール脱着時の不適切な取り扱いによる 車輪脱落事故が多発しています。

車籍別にみると、東日本地区に多く発生！

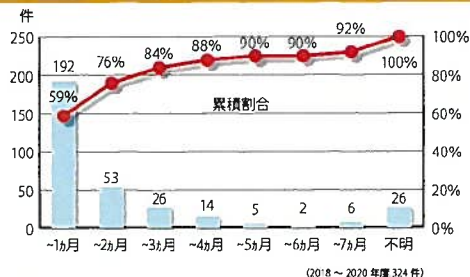


11月から3月の冬季に約7割が脱落

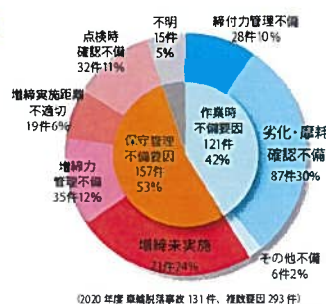


冬用タイヤ交換時は特に注意！！この時期には取付状態の点検を徹底しましょう！

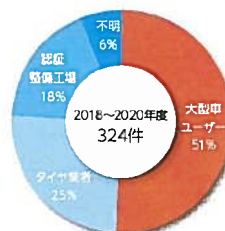
タイヤ交換から2か月以内に約8割が脱落



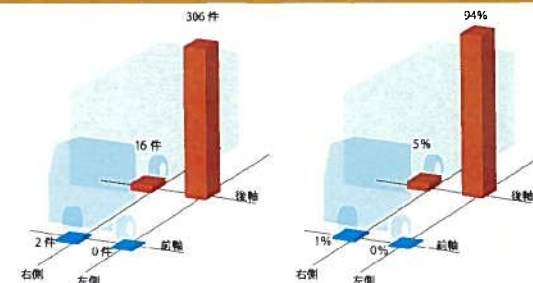
特に、劣化・摩耗確認不備と増し締め未実施が原因と思われるものがあわせて約5割！



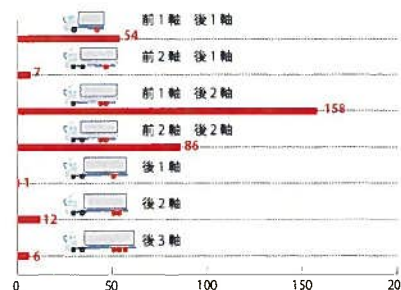
車輪脱落事故の半数が
ユーザー自らによる作業



脱落するタイヤは、左側後軸が全体の9割強！



車輪脱落事故の約半数は
「前1軸 後2軸」車



初年度登録年から4～7年経過車両に多く発生！



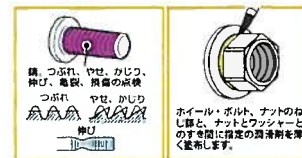
ユーザー自らタイヤ交換する時は特に左後輪に注意しましょう！

新しい大型トラックには新ISO方式の右ねじが採用されています

- 準備 ディスク・ホイールに適したホイール・ボルトを使用します
- 点検 ホイール・ボルトやナットを点検し、必要に応じて交換します
・ボルトのサビ・亀裂や損傷
・ボルトの伸び
・ねじ部のつぶれ、やせ、かじり等の異状
- 清掃 給脂 ホイール・ボルトのねじ部、ホイールナットのねじ部、ディスク・ホイールを清掃（さび、ゴミ、泥、追加塗装等の異物を取り除く）します
・ボルトやナットのねじ部に加え、ナットとワッシャーとのすき間にも注油します。
- 締め付け トルクレンチを使用して、ホイール・ナットを規定トルクで確実に締め付けます
- 確認 タイヤ交換後、50～100km走行後に増し締めを確実にしています

【点検】

【給脂】



「タイヤ交換時のポイント」が全ト協ホームページからご覧頂けます。
https://jta.or.jp/member/anzen/tenken_snow_dvd.html

